

令和2年度 第1回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和2年6月15日 開 催

豊橋市教育委員会

第1回 総合教育会議

日時	令和2年6月15日(月) 午後3時00分～5時00分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	佐原 光一 市長 山西 正泰 教育長 高橋 豊彦 教育委員 渡辺 嘉郎 教育委員 内浦 有美 教育委員 中島 美奈子 教育委員
事務局	金田 英樹 副市長 黒釜 直樹 財務部長 大林 利光 教育部長 駒木 正清 教育監 浅野 博久 財政課長 中村 三木也 学校教育課長 角野 洋子 教育政策課長 浅倉 淳志 教育政策課主幹 ほか 6名
その他	傍聴人 5名

議事日程

市長あいさつ

協議事項

- 1 「教育大綱」と「教育振興基本計画」の策定について
- 2 とよはし版 GIGA スクール構想について

その他

令和2年度の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和2年9月7日(月) 15:00～

(市長)

ただいまから令和2年度第1回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。

協議事項

1 「教育大綱」と「教育振興基本計画」の策定について

■教育政策課長 協議事項について資料説明

(市長)

第2次豊橋市教育振興基本計画の位置づけの中に、「教育振興基本計画」は記載されていますが、「教育大綱」は記載されていません。「教育大綱」は、どこに位置づけられるのですか。

(教育政策課長)

「教育大綱」は、「教育振興基本計画」のように体系だったものではなく、市民に向けてのメッセージという形になりますので、ここでは記載しておりません。ただし、関係がないわけではなく、「教育振興基本計画」から導き出されるメッセージという位置づけになります。

(高橋委員)

「教育大綱」は、豊橋市の教育の基本姿勢や基本理念にあたるものを示したものになるわけですね。

(市長)

では、「教育大綱」を実現するためのものが、「教育振興基本計画」という捉えになるわけですね。ここでいう教育とは、子どもや若者だけでなく、生涯教育という視点も含んでいるということよろしいですか。

(教育政策課長)

その通りです。

第2次豊橋市教育振興基本計画の関係図については、わかりやすくなるように検討していきます。

(渡辺委員)

「教育大綱」も10年で改訂ということよろしいですか。

(教育政策課長)

基本的には10年で改訂ですが、「教育振興基本計画」の柱は、5年で見直しをしますので、その時に、時代に沿った方向での見直しが必要であれば行います。

(教育長)

「教育を取り巻く社会情勢と課題認識」に記載されている「新しい生活様式の導入」の中にICTを活用した教育が記載されていますが、「情報通信技術の技術革新」の中にも同様な記載がされています。どのような関係になりますか。

(教育政策課長)

「新しい生活様式の導入」で、現在、最も議論になっているのが、次の休校措置があったときに、どのような教育を子どもたちに施すかということです。例えば、オンライン授業を行うことなどを踏まえて、ICTという言葉にしましたが、言葉がかぶってわかりにくいようであれば書き直していきます。「新しい生活様式の導入」でイメージしているのは、学校現場だけではなく、特に子どもたちの学習保障を意識して記載したいと考えています。

(渡辺委員)

新しい生活様式については、ICT教育だけではなく、感染対策なども含まれてきますね。

(高橋委員)

「新しい生活様式の導入」については、変化よりも対応という見方で記載するとよいと思います。今後10年のスパンで見たときに、ICTばかりにフォーカスしてしまうと偏ってしまうので、変化にいかに対応していくかという内容にしていくとよいと思います。

(市長)

「情報通信技術の技術革新」については、ICTを生かした教育、ICTの時代にふさわしい子どもの育成という内容です。例えば、不登校の子どもが、分身ロボット「OriHime」を使って授業に参加するという内容になるわけですね。

(中島委員)

「教育大綱」の「自立」「挑戦」「共生」の説明文について、「自立」「挑戦」は、このような子どもを育むということでもわかりやすいですが、「共生」の「誰一人取り残すことのないよう」とある部分の対象がわかりづらく意味がよくわかりませんでした。

(市長)

「誰一人取り残すことのないよう」というのは、SDGsのキーワードになるわけですが、「自立」「挑戦」は、「自分に」「自分の」というように個人について記載されていますが、「共生」では、突然「みんな」になっており、主語が変わってしまっていますね。

(教育政策課長)

「自立」「挑戦」は、その人その人の個人について記載していますが、「共生」は、外から見た視点が入っています。書きぶりが変わってしまっていますので、見直したいと思いますが、「自立」「挑戦」「共生」の3つのメッセージについて、個人での視点で統一した方がよろしいでしょうか。

(市長)

「共生」の「互いに信頼し支え合いながら」からは、よいと思いますが、冒頭の「誰一人取り残すことのないよう」は、浮いている気がしますね。全体的には、よい言葉が使われていると思います。「誰一人取り残すことのないよう」ということは、今、世界で一番求められているスタンスですね。

(中島委員)

土台に、非認知的能力的な部分が多く感じられますし、失敗があっても粘り強く生きていくという強い心と、共生という広い心が感じられてよいと思います。

(渡辺委員)

「共生」の書きぶりを、「互いに信頼し支え合いながら、誰一人取り残すことのないよう」としてみるとよいかもかもしれません。

(高橋委員)

「共生」の文章と、5ページの「教育的ニーズの多様化」の文章を見比べてみて感じたことが、尊重ということだけでなく自己開示性も大事だということです。日本では、グローバル化の社会においても、自己開示性に対してあまりよいとされない文化がありますが、多様性を育む中では重要になると思います。

(中島委員)

「人生100年時代の到来」の欄に、「生涯にわたり学び続け」とあるので、障がい者や高齢者を含めたニーズも重要になると思います。外国人や貧困状態にある人などについても記載してあるので、困難を抱えている人を含めた教育的ニーズを重視したいと考えます。

(高橋委員)

障がい者や弱者については、強い弱いというよりも、多数派か少数派かというように捉える必要があると思います。障がい者となるのは、社会に障害があるという見方もありますので、10年を見据えた取組みにおいては、言葉を慎重に選ぶことが重要だと思います。新型コロナウイルスの関係で、日本の課題がよい意味でも悪い意味でも浮き彫りになったので、ちょうどこのタイミングで更新するので、よいメッセージが出せたらよいと思います。

(渡辺委員)

新型コロナウイルスの関係で、日本のICT教育がいかに遅れていたかが浮き彫りになりました。日本の教育は確立されていますが、見方を変えるとそこで止まってしまっていたとも考えられます。日本では、先生が丁寧に教えてくれていたので、子どもたちは、自分でやらなくても済んでしまった傾向にあり、議論ができない、自分の意見が言えない子どもたちが増えてしまったことも事実です。これからは、グローバル社会になるので、自ら開拓して挑戦できる子どもたちを育成していく必要があると思います。

(教育長)

SDGsの視点は、どこに大きく表れていますか。

(教育政策課長)

SDGsに関しては、社会情勢の欄に書き込むと大きな理念になるので、「計画を推進するにあたって」の章立ての中で記述していこうと現在考えていますが、「教育を取り巻く社会情勢と課題認識」の中に記載した方がよいということであれば対応します。

(市長)

SDGs に関する記述は、一度作成をして検討をするということをお願いします。

子どもたちの実態の多様化に伴い、個々の目標も多様化していますが、理系の技術をもった人が増えていかないといけないと感じています。子どもたちの目ざす方向性について、理系教育について記載があってもよいと感じています。

(内浦委員)

教育行政の一般方針に記載してある「理念」と「めざす人物像」はとてもよいと思います。どのような時代においても、この「めざす人物像」はとても重要だと思います。「教育大綱」の3つのメッセージについては、子育てしている立場から言わせていただくと、「頑張っ、切磋琢磨して、己を磨く強い人」になることはもちろん重要ですが、「ありのままの自分でいい」と思う母親の気持ちもあります。豊橋の教育には、「ありのままの自分」でいられる安心した場所があるというようなことが、どこかに入っていると親としては安心できます。現代では、若者の自己肯定感が減ってきており、どのように育ていくかが重要課題となっています。自己肯定感が低いために、自己開示ができない現状があるので、自己肯定感を育ててよいということを大人たちが言ってくれる「まち」になるといいなと感じます。「勉強ができなくても、運動ができなくても、あなたがいるだけでお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんうれしい。」というような感じになるとうれいです。

(中島委員)

「誰一人取り残すことのないよう」とは、「みんなが自立できるように」「みんなが挑戦できるように」という意味であれば、「共生」の欄に、「互いの個性や存在を認め合う」ことを盛り込みながら、「誰一人取り残すことのない」が豊橋市の方針であるというようにまとめていけばと思います。

(高橋委員)

社会の包容力がだいぶ欠如している現状もあるので、「社会の包容力」という言葉をうまく使ってまとめていけると内浦委員の言われたことも入れられるかと思います。

(教育政策課長)

「誰一人取り残すことのないよう」については、どちらかというと行政的な目線で、「自立」「挑戦」は、一人一人の目線であり、バランスが悪いということと、内浦委員の言われた「頑張りすぎないでもよい」という視点も踏まえて、「共生」についてはもう一度考えていきたいと思っています。

(渡辺委員)

自然環境や環境問題についての視点での記載もあつたらどうかと思います。

協議事項

2 とよはし版 GIGA スクール構想について

■学校教育課長 協議事項について資料説明

(渡辺委員)

タブレットを使って双方向のリモート授業もできますか。

(学校教育課長)

無料ソフトの Zoom 等を使って行うことができます。

(市長)

Zoom は、40 分の時間制限付きの無料版と、時間制限のない有料版がありますが、無料版で行うということですね。

(渡辺委員)

現在、Zoom を使ったりリモート授業をどこかの学校で実施していますか。

(学校教育課長)

まだ実施しておりませんが、現在、嵩山小学校で準備を進めています。実施を検討している学年では、すべての児童の家庭で Wi-Fi 環境が整っている状態になっています。

(渡辺委員)

Zoom を使った授業を私も 5 回程行いました。最初は慣れませんが、相手の顔を見て授業ができるし、相手に問いかけることもできるので、案外やれるものだと感じました。とにかくやってみないとわからないので、先生方はどんどん実施した方がいいと思います。

(高橋委員)

Zoom を使った会議などでは、1 対 1 のマンツーマンで行う場合は、相手の顔が問題なく映りますが、周りの人や物を映す時には、カメラを動かすなどの面倒さがあります。高解像度の広角レンズがあると便利です。Zoom では、伝達はできても議論は難しいと感じています。

(市長)

意思決定をする議論の場では、なかなか使えないと思います。

(中島委員)

オンラインのシステムはどんどん良くなってきていて、全体のリモート授業をしたり、グループでのミーティングもできたり、集約もできたりします。

(教育長)

タブレットが配備されたら、「オンラインの日」というのを設定して、午前中は学校で授業を行い、午後はタブレットを家に持ち帰ってオンラインで授業を行うなど、先生も子どもも慣らしていかないと、今後第 2 波がきた時に、タブレットを家に持ち帰っても使えないという状況になってしまいます。

(高橋委員)

オンライン授業の場合、先生の見えないところ、つまり画面に見えないところで、チャットを使って子ども同士で勝手にやり取りができてしまうことも心配なことになります。

(渡辺委員)

9月以降にコロナウイルス感染拡大が心配されます。タブレットの導入スケジュールはもっと早くなりませんか。

(教育政策課主幹)

現在、校内のネットワーク工事を行っていますが、校内LANが繋がった状態で端末の設定をしていきますので、ネットワーク工事が終わった学校から順次端末の設定を行っていき、使用することができるようになります。

(市長)

万が一の時は、学校内の設定ができていなくても、Zoomや必要なソフトの設定だけができれば、タブレットを家に持ち帰って使うことができますよね。問題は、Wi-Fi環境が整っていない2%の家庭をどうするかということです。モバイルルーターを貸し出すにしても500台が必要になりますね。

(高橋委員)

休校になった時は、Wi-Fi環境が整っていない家庭の子どもは、自主登校をしてもらい、学校の施設の中でオンライン授業を受けてもらうのがいいかと思います。

(渡辺委員)

電子ドリルは、ネットにつながっていないと使えないのですか。

(学校教育課長)

その通りです。

(中島委員)

体調不良等で欠席している子どもは、オンラインで授業に参加することもできますね。そうした時は、出席扱いになりますか。

(市長)

分身ロボット「OriHime」の導入の時にも、同様の話がありましたが、状況によって出席になったり欠席になったりするそうです。体調不良や感染症が心配で欠席している子どもへの対応は、課題の一つですね。

(教育長)

一番心配しているのが盗難です。タブレットの充電保管用ロッカーは、各教室に置くわけですが、教室にはセキュリティがありません。窓ガラスを割って簡単に盗難ができてしまう状況になりますので心配です。また、子どもたちが家庭に持ち帰る途中に襲われることも心配です。

(市長)

学校の防犯カメラの数を増やすのも対策の一つですね。

(高橋委員)

位置情報検索ができるように設定しておくのも対策の一つですね。セキュリティについては、しっかりと考えた方がいいですね。

(市長)

県教育委員会では、セキュリティについて何か対策はでていませんか。

(教育長)

でていません。

(市長)

セキュリティについては、文部科学省や県教育委員会に確認するのも一つの方法です。それで何も決まっていなかったら、市で考える必要があります。

(中島委員)

今後の課題にデジタル教科書の利用がありますが、どのような見通しでしょうか。

(学校教育課長)

教師用デジタル教科書は順次導入していますが、子ども用についてはまだ具体的には決まっています。

(市長)

GIGA スクール構想については、教育委員の方々が毎月参加される会議で、進捗状況について報告をしながら進めてください。

令和2年度の協議事項について

■教育政策課長 資料説明

連絡事項

・次回開催日程 令和2年9月7日(月) 15:00～

(市長)

p 以上で、令和2年度第1回豊橋市総合教育会議を終了します。